

令和7年3月吉日
世田谷区立中丸小学校
校長 橋口 直美

前年度の改善方策について実行した改善結果

改善策1 学校行事の活性化

「学年や学級で保護者に発表する機会を増やすなど、現代に応じた学校行事のあり方を工夫してほしい。」との提言を受け、児童の主体的な学び、意欲の高まりを最優先に、新たに内容を増やすことなく、教職員に過度の負担がかかることがないようにしていく。

- ・体育発表会 全校児童参加種目の取り入れ
- ・学芸的行事 日常的な音楽発表会（毎月）、多様な内容の学芸的発表会
- ・日常的な発表の機会 学年発表会など、3学期、すでに行っております。
引き続き行ってまいります。

⇒ 児童の主体的な学び、意欲の高まりを最優先に、教職員に過度の負担がかかることがないように工夫した学校行事に精選した。

- ・体育発表会では、全校児童による競技種目「大玉送り」を入れ、全校児童が一丸となって盛り上がり、保護者、地域からは「子どもたちの姿に感動した」と高評価を得た。
- ・学芸的行事は、新たに「ニコニコ中丸学習会」という総合的な学習の時間と他教科とのコラボ学習の発表会を行った。学区内にあるお寺や公園といった地域との関わり、下学年児童や学区内幼稚園児・保育園児との関わり、SDGsの課題解決に向け、企業や地域、保護者との関わりなど大勢の人を巻き込んだプロジェクト型の学習を行った。オリジナルの中丸ラーメンを開発、販売、売上金をユニセフに寄付したり、地域を活性化しようとお祭りや交流会を企画、実現したりする中で、子どもたちの社会形成能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力が高まった。保護者からも次年度も続けてほしいといわれている。
- ・毎月の音楽朝会を学年ごとの音楽発表会に変え、前半は当該学年児童の発表、後半は全校児童による合唱という形で学年の子どもたちの様子を見てもらえる機会を作った。朝の時間であるが、毎回大勢の保護者が見に来て、評価が高い。
- ・さらに秋のスポーツ大会、お別れスポーツ大会など年度途中であるが、保護者や地域が子どもたちの様子を参観できる機会を増やした。

改善策2 地域や保護者の学校参加

「日常的な地域や保護者の参加を増やす工夫をしてほしい。」との提言を受け、改善策1と重複する部分もあるが、すでに改善策を講じてきた。

⇒・学年発表会・・・3学期の保護者会前や学校公開、土曜授業日で行った。
・全校合唱・・・6年生を送る会、響きの学び舎 駒留中合唱交流、お別れの会などを中丸ホールで行った。令和6年度はさらに毎月の音楽朝会を音楽発表会と

して行い保護者の参観を呼びかけ、高評価だった。

- ・大学・企業・NPOとの協力・・・日本大学危機管理学部、ユニクロ、明治安田生命などと行った。
- ・いじめ傍観者「〇」の地域をつくる・・・道徳授業地区公開講座で地域・保護者も参加する出前授業を行った。講師は、『こども六法』の著者 山崎 聰一郎氏
- ・ベジチェック・・・学校行事や授業参観のときにブースを設置。気軽に緑黄色野菜摂取が分かるもの。学期に1回行った。毎回大勢の方が参加し、血管年齢も測定できるようにブースを増やした。

令和6年度は新規に「ほっとルームなかまる」を設置し、個別に対応が必要な児童にもていねいに対応した。保護者からは、「ほっとルームなかまる」を存続し引き続き教室外でも別教室があることで安心できるようにしてほしいと懇願されている。

文部科学省リーディングDXスクール事業指定校、「働き方改革推進モデル校」としても、率先して区内小学校に働き方改革の実践を提言してきた。子どもの質の高い学びを実現するためには、教職員のウェルビーイングが何よりも大切であり、働き方改革を行ってきた。

次年度も「大人も子どもも元気でウェルビーイングな中丸小」を掲げ、中丸小の教育活動を通して、子どもたちが主体的に「自分で自分を育てる力」「未来をつくりだす力」を育み、子どもも大人もウェルビーイングをつくりだす中丸小学校の教育活動をつくっていく。